

## 平成 26 年度夏季

# 兵庫県ワシントン州事務所インターンシップ報告書

兵庫県立大学経済学部国際経済学科 四回生

本田祥恵

### ○インターンシップの内容

週三日（基本、月・水・木）午前十時から午後四時まで。遅くても五時までには帰宅するという決まり。お昼休憩は、十二時から一時頃まで。

#### - 事務・雑務

電話対応、来客対応、メールの翻訳、航空券の手配等の事務作業。また、窓の開け閉めやコピーを入れるなどの事務所の基本的な業務も。事務所が十月ごろに引っ越す予定だったので、引っ越し準備の手伝いをするこもあった。

#### - 資料作成

十月に兵庫県裏千家淡交会がワシントン州を訪問し、お茶会を通して文化交流するというイベントの広告作成。それに伴い、シアトルの淡交会の方たちとのミーティングにも出席した。

日本語版の事務所のパンフレットを基に、翻訳しデザインを考え英語版パンフレットを作成した。

語学指導プログラム JET の同窓会で配布する、兵庫県のマスコットキャラクター“はばたん”を知ってもらうための資料を作成した。

来年一月に開催されるシアトルギフトショーで、事務所がブースを持ち、日本の商品を並べるために日本企業に向けた、ギフトショーの宣伝広告を作成した。

### ○インターンシップで得たこと

様々な業務をこなす中で、イベントの趣旨を理解したり、姉妹都市交流の存在を知ったりすることが、アメリカと日本の見えない距離の近さを感じさせた。シアトルでも多くの日本人や日本の物を見かけることができるのは、この事務所のように“日本”を伝えるために多くの人が働きかけているからだということを学んだ。大学で、アメリカに存在している日本文化の違和感（アニメや食の文化）について勉強していた私にとって、ビジネスや文化交流を通して、地元の人に本来の日本を知ってもらうこの働きは、とても大切であると再実感することができた。また、広告やパンフレットの作成を通して、アメリカ人向けなのか日本人向けなのか等、ターゲットを考えデザインしなければならない大変さに直面した反面、私に Photoshop 等のソフトを使い、デザ

インする力があつたことに気付くことができた。

### ○これからの自分にどう活かされていくか

インターンを通して具体的に三つのことを、これからの自分のモットーにしていきたいと思った。

- やるからには最後まで諦めずに考え抜く

資料作成をされていて、多くの壁にぶつかり、その度にアドバイザーにお世話になった。そのアドバイザーが、根気強さがあれば、成し遂げることも出来るということを教えてくれた。

- 人との繋がりを大切にする

様々な交流が盛んに行われている場で働くことで、私自身 small world に驚くことが何度かあった。インターンに出会えたこと、またそこで出会えた人の繋がりはこれからも無駄にしたいくない。

- やって見ないと分からない

英語での電話対応や来客対応、資料の作成等、初めてのことばかりではじめはどうなるかと思ったが、何事もチャレンジしてみない自分の力を知ることが出来ないということに気付いたので、これからも多くのことに挑戦していきたいと思う。

### ○後輩たちに引き継いでいきたいこと、メッセージ

海外と日本の交流について、新聞やイベントで知っていても、誰の手によってどのように行われているか知る機会は少ないと思います。この事務所で働くことは、それを自分の目で見て知ることができるということですが、それと同時に普段いかにそのような交流について無意識であったかも実感することになると思います。私が引き継ぎたいことは、このインターンをする前に日本の文化をしっかり勉強してきて欲しいということです。日本人として、何をどうアメリカに残したいか。この事務所はそれを様々な形で実践できる場であると思うからです。

